CUSTOMER CASE STUDY:
October 2026



SPORTS ENTERTAINMENT ROUND1

ボウリングをはじめ、アミューズメントやカラオケ、スポッチャなど屋内型複合レジャー施設の運営を手掛ける株式会社ラウンドワンジャパン。日本国内の100 店舗に加え、米国でも 59 店舗を展開するなど、国内外に 162 店舗（中国 3 店舗を含む）を構え、世代を超えて誰もが一日中楽しめるエンターテインメント空間を提供しています。また、海外展開を加速させるための飲食領域におけるグローバル戦略として、本物の日本食を提供するラウンドワンデリシャスプロジェクトや「食×遊」のエンターテインメントを提供するジャパニーズフードホールプロジェクトなど新たな事業展開にも積極的に取り組んでいます。

導入環境およびサービス

・VMware Cloud Foundation® Edge
・VMware Cloud Foundation® Operations

ソリューション

店舗同士を接続して楽しむコンテンツなど顧客体験を高めるための仕組みを動かす基盤や店舗に設置された複数の POS データを集計する会計処理の基盤など、複数の機能を仮想環境に展開できる店舗サーバーに VMware Cloud Foundation Edge（以下、VCF Edge）を導入。センターと店舗をつなぐ低遅延なネットワークとともに、本部および 98 店舗それぞれに同一ハードウェア環境を設置し、VMware vSphere 上で動かす複数の仮想マシンで業務を運用。VMware Cloud Foundation Operations（以下、VCF Operations）によって基盤の稼働状況を的確に把握しながら、アラート発生時の原因特定から対処法のガイドまで、店舗サーバーの迅速な復旧につながる環境を整備しています。

導入の目的

・顧客を呼ぶ仕組みづくりと、店舗運営の省力化を推進
・保守性が高く、複数サービスが動かせる店舗サーバーが必要
・センター側で集中管理でき、店舗側の負担を最小限に

導入効果

・全国 98 カ所に VCF Edge による同一環境を設置し保守性と拡張性が向上
・VCF Operations で稼働状況の把握と対処ガイドにより、迅速な復旧を実現
・仮想化により将来を含めたハードウェア調達コストを最適化

全国 98 カ所に同じ環境を展開、リソース効率化と保守性の向上に寄与 少数精鋭での業務基盤運用を 可能にする VCF Edge

国内の屋内型複合レジャー施設の運営を手掛ける株式会社ラウンドワンジャパンでは、店舗運営に欠かせない業態別 POS の集約機能や映像配信基盤など複数の機能を持つ店舗サーバーを VCF Edge による仮想環境を用いて構築。センターと店舗をつなぐ低遅延なネットワークを敷設したうえで、国内 98 店舗それぞれにハードウェア含めて同一環境を設置。保守性を高めながら仮想環境による拡張性の高い基盤を運用、将来含めた調達コストの最適化も実現しています。

【課題】
顧客を呼び込む新たな仕組みづくりと省力化に向けた環境整備が必要に

1980 年に設立、ボウリングをはじめ、アミューズメントやカラオケ、スポッチャなど屋内型複合レジャー施設の運営を手掛けている株式会社ラウンドワンジャパン。「笑顔と健康とコミュニケーションの場」として競争力のある来場型サービスの提供を行っており、米国や中国含めて 162 店舗を展開しています。従来の『遊』に『食』を掛け合わせた新たな体験価値の創出にも挑戦しており、海外展開を加速させるための飲食領域におけるグローバル戦略を強力に推進しています。

同社が運営する店舗では、かつてはネットワークに接続されていないスタンドアロンの POS システムを利用しており、展開する業態が増えるたびに新たな POS システムを導入してきた経緯があります。「例えばカラオケなどでは売上に必要な管理項目に時間が関係してきますが、それまで時間管理をしていないボウリングの POS システムでは対応できないケースも。多額の費用をかけてカスタマイズするのではなく、個別の POS システムで運用することを選択してきました」と運営企画本部 部長 システム部 山口 輝久氏はこれまでの経緯を語ります。

また、顧客に新たな価値を提供するコンテンツを整備する際には、業態ごとに事

vmware by Broadcom

業者を選定して基盤を開発するなど、全体を俯瞰したシステム構築のプロセスにはなっておらず、店舗で生まれたデータは紙や FAX で送って本部で集計するといったアナログな業務で運用してきました。結果として、店舗ごとに個別最適化された運用が行われていたのです。

そんな折、顧客を呼び込むための新たなコンテンツや仕掛けを各業態で構築していくプロジェクトが企画されることに。「例えば店舗が離れていても一緒にボウリングやカラオケが楽しめるといった、ネットワーク越しに楽しめるオンライン対戦のようなコンテンツづくりがその一例です。そのためには、各店舗をつなぐ低遅延なネットワーク環境とともに、店舗側にもコンテンツを管理するための環境整備が必要になったのです」と同本部 嘱託 部長 システム部 富山 清貴氏は当時を振り返ります。

また、将来的には店舗運営において人手不足が懸念されることから、無人受付機の開発など省力化につながる新たな環境整備が求められました。そこで店舗サーバーを設置して複数の POS データを集約し、ボタン 1 つで売上が締められるような仕組みづくりも同時に検討されたのです。

【ソリューション】
全ての店舗に仮想化された同一環境を最適なコストで提供する VCF Edge

顧客体験を高める新たなコンテンツづくりとオペレーションを簡素化するための環境整備において求められたのが、店舗内に設置するサーバーでした。「データセンターに設置したサーバーで店舗の仕組みを動かすことも検討しましたが、何かあれば全店の環境が停止してしまい、お客さまにご迷惑をおかけしてしまうことに。そうならないためにも、店舗にサーバーを設置して、データセンター側から管理する仕組みが最適だと考えたのです」と山口部長は当時を振り返ります。

店舗に IT 専任者が不在のため、店舗サーバーは本社から集中監視、一括管理できるかどうかが大きなポイントの 1 つでした。また店舗ごとに仕様が異なると運用保守が複雑になるため、全ての店舗に同一のインフラを設置し、共通化することも要件に掲げたのです。「店舗側は定期的に埃を取り除くといった簡単なメンテナンスだけお願いし、何かあれば本社側で状態が把握でき、迅速な修理手配が可能な運用にしたいと考えました」と同本部 課長 システム部 山口 吉人氏は説明します。

そこで、1 つのハードウェア上で複数の仮想マシンを動かし、用途別にサービスを運用できる VMware の仮想環境が開発



株式会社ラウンドワンジャパン
運営企画本部 部長
システム部
山口 輝久氏

「システムが止まると普段はシステムで自動化されている業務がスタッフによるマニュアルオペレーションになり、現場に多大な負担を強いることになります。1 秒でも早く復旧させる、止めないということが根底にあり、それを満たしてくれる環境が整備できました」

株式会社ラウンドワンジャパン
運営企画本部 部長 システム部 山口 輝久氏

パートナーから提案されました。「サービスごとに物理的なサーバーを設置するスペースは店舗にありませんし、ハードウェアの調達コストも高額になってしまう。それなら仮想化技術を使い、複数のサービスを 1 つのハードウェアに集約できる環境が最適だと提案を受けたのです」と富山部長。

そこで、全国の店舗に対してコストを最適化したうえで展開できるソリューションとして、ハイパーバイザーとしての VMware ESX と、システム全体を統合管理できる VCF Operations がパッケージ化され、エッジ環境向けに最適化された VCF Edge に注目したのです。

同時に、店舗同士をつないでデータセンターから店舗サーバーを管理する仕組みづくりに向けて、データセンターに設置する管理基盤や低遅延なネットワーク環境を整備したのが、VCSP (VMware Cloud Service Provider) としてパートナープログラムに参加している株式会社インターネットイニシアティブ（以下、IIJ）でした。

結果として、データセンターで集中管理するサーバーとともに、店舗に設置する店舗サーバーを稼働させるためのソリューションとして、VCF Edge が選択されたのです。

【今後の展望】
保守性を高める VCF Edge と VCF Operations により日々の運用を高度化

現在は、国内 98 店舗に対して VCF Edge ノードを配置し、

各ノード上で 9 台の仮想マシンを稼働させています。店舗サーバーでは、冗長化された DB とともに、POS データの集計などを行う会計処理用サーバー、店舗スタッフ用インカムサーバー、映像配信やスクリーン表示を管理するサーバーなど、用途ごとに仮想マシンを立ち上げています。ネットワークについては、IIJ が提供する専用閉域網にて店舗とデータセンターが接続されています。それ以外にも、業務ごとに必要な複数のブロードバンド回線が店舗ネットワークとして敷設されている状況です。

POS システムのデータ集計については、店舗の閉店時間に POS システムを締め、VCF Edge ノード上で稼働する店舗サーバーに情報を集約。データセンター側にあるデータ集計用の仕組みに集約され、最終的には本社にある DB サーバーに売上情報が集まってきます。売上情報は売上分析用のツールにて確認可能で、役員が経営判断を行うための情報として活用しています。

日々の運用管理では、VCF Operations を使って自動的に生成されたレポートを確認することで、基盤の安全性や健全性などをチェックしています。「クリティカルなアラートが出た場合は、通知の根拠となるデータを示してくれるだけでなく、対処の方法についても提案してくれます。以前はログを出力してメーカーに送り、アラート原因を分析してもらってからの対応だったため、とても時間がかかっていました。今は迅速に対応できるようになっています」と山口課長は評価します。また、リソース状況が可視化できるため、仮想マシンがどの程度増やせるのかといった予測が可能で、効率的なインフラ活用に向けた計画が立てやすくなっていると言います。

全ての店舗に同一環境の店舗サーバーを設置し、データセンター側で集中管理する環境が整備できたことで、店舗が増えた場合でも同一環境を展開するだけで、運用管理における負担を増やすことなく事業拡大に対応できる環境が整備できています。「店舗サーバーのスペックにゆとりがあるため、仮想マシンの数は柔軟に増やせる状況にあり、何か新たなコンテンツを企画しても、別途新規でハードウェアを用意する必要がありません。調達コストが高騰している今、コストを増やすことなく新たな施策を進めるためのインフラがすでに用意できている点は大きい」と山口部長は力説します。新たにハードウェアを調達すると数倍のコストが発生することが見えていることから、その分のコスト削減にもつながっていると好評です。

店舗側の負担についても、店舗サーバー側にアプリケーションやデータが集約されることで、本社のシステム部でサポートできるケースが増えており、そもそも問い合わせ自体が減っている状況です。トラブルが発生した時には、必要な店舗側の対応フローチャートを AI チャットボットが回答する仕組みを別途用意している影響もありますが、店舗運営に必要な多くの仕組みが乗った店舗サーバーが本社集中型の監視管理体制になったことも問い合わせが減った大きな要因だと説明します。



株式会社ラウンドワンジャパン
運営企画本部 課長
システム部
山口 吉人氏

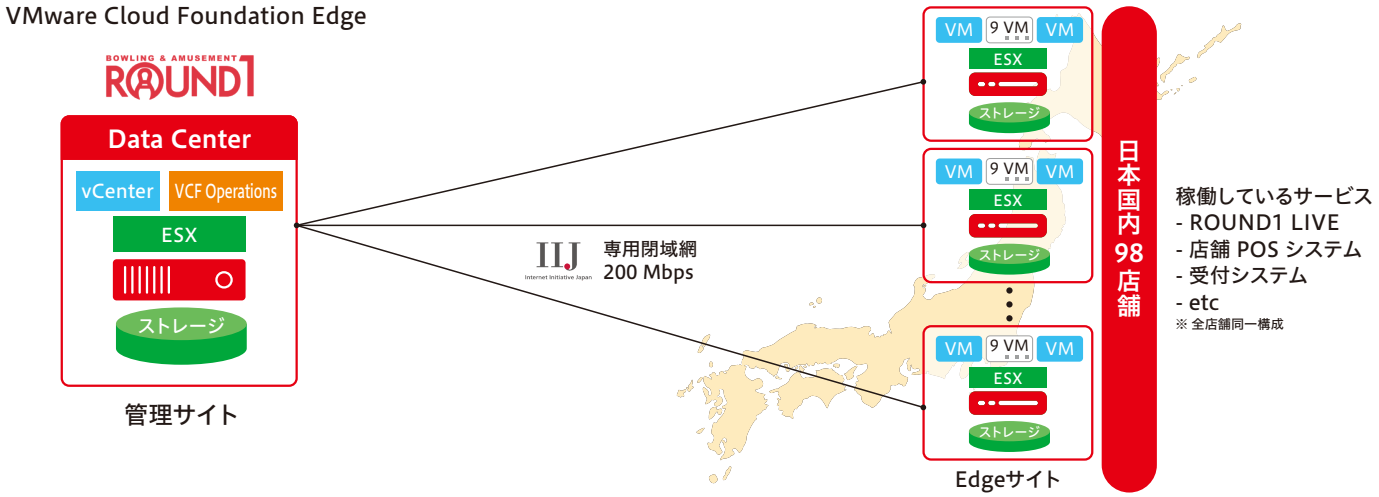
「以前はログを出力してメーカーに送り、アラート原因を分析してもらってから対応せざるを得ないため、とても時間がかかっていました。VCF Operations のおかげで今は迅速に対応できるようになっています」

株式会社ラウンドワンジャパン
運営企画本部 課長 システム部 山口 吉人氏

VMware ソリューションについては、高度な仮想化技術によってサーバー環境を柔軟に拡張できるだけでなく、他のハイパーバイザーに比べて扱いやすいと好評です。「様々なハイパーバイザーに触れたことがありますが、設定しやすさは VMware が一番です。また利用者が多いことから困ったときに聞ける人が多くいることで、安心感が得られることも大きい」と富山部長は高く評価します。

また、全体的な専用閉域網を構築してネットワーク環境から同社のビジネスを支えている株式会社インターネットイニシアティブ エンタープライズ営業本部 西日本第一事業部 第二営業部 営業 1 課 坂田 裕貴氏は「VMware は営業担当者であっても技術にかなり詳しい。製品に対する知識の深さはもちろん、IT に関する根本的な知識も持っており、ここまでの知識と経験がないと VCF Edge の営業は務まらないのではないかと感心しています」と人材に関して高く評価します。

なお、IIJ に対しては「我々の要望を多岐にわたり聞いていただいており、本当に感謝しています。最近では遠隔地バックアップの提案をいただきましたが、想定よりも高額だったため、すぐに別の提案を持ってきていただけました。私自身の勉強にも



つながりますし、一緒にビジネスをやっていて助けていただくことが多い。VMware ソリューションに限らず、IT 関連のセミナー案内など日々の業務に役立つ情報をいただけていることもありがたい」と富山部長からも好評です。

今後については、顧客の体験価値を高める新たなコンテンツを展開する際にも、引き続き VCF Edge にて構築された店舗サーバーを有効に活用していく計画です。また、現状は国内店舗だけに店舗サーバーを展開していますが、体制が整いつつある米国市場で同一環境を展開していくことも想定しています。「同じ環境を展開することでシステム部として運用保守の負荷を軽減できることはもちろん、結果的にセキュリティ強化やコストダウンが同時に実現できることにもつながります」と山口部長は期待を寄せています。

また、VCF Operations によって店舗サーバーの可視化レベルは向上していますが、AI を活用してさまざまな角度から分析を進めることで、障害発生前の予知やその対策に向けた予防へのアプローチにつなげていきたいと語ります。「障害特定も含め、我々のオペレーションをこれまで以上に楽にしてくれる仕組みは適切に実装したいところです。最終的には、店舗スタッフがお客様と接する時間をできる限り長く持てるような、環境整備を進めていきたい」と今後の方向性について山口部長は語りました。



株式会社ラウンドワンジャパン
運営企画本部 嘱託 部長
システム部
富山 清貴氏

「自分たちがシステムの専門家でないなか、市場で広く普及している VMware だからこそノウハウが豊富で、聞ける人が多いというのが一番大きかった」

株式会社ラウンドワンジャパン
運営企画本部 嘱託 部長 システム部 富山 清貴氏



vmware by Broadcom

Copyright © 2026 Broadcom. All rights reserved.
The term "Broadcom" refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries. For more information, go to www.broadcom.com. All trademarks, trade names, service marks, and logos referenced herein belong to their respective companies. Broadcom reserves the right to make changes without further notice to any products or data herein to improve reliability, function, or design. Information furnished by Broadcom is believed to be accurate and reliable. However, Broadcom does not assume any liability arising out of the application or use of this information, nor the application or use of any product or circuit described herein, neither does it convey any license under its patent rights nor the rights of others.
Item No: 261009_bc-vmw-customer-case-study-round1 10/26